

ふりがな 氏名	しょうじ かえで	都道府県	北海道	
	小路 楓			
所属/肩書	北海道大学大学院環境科学院			
関心・活動のSDGs				
私のESD活動	人との交流を通して、持続可能な社会づくりに関わる問題を考える人を増やしていくための場づくり			
活動の概要				
<p>任意団体 omusubi の代表として EPO 北海道や北海道学校 ESD 実践研究会、NPO 法人 ezorock と協力しながら主に北海道のユースを対象に、持続可能な社会づくりに関わる課題に取り組みたいユースの支援を行うために場づくりを行う活動をしている。具体的な活動内容は、社会課題や ESD や SDGs をキーワードに活動するゲストを呼び、トークセッション・参加者交流をメインとしたイベントなどを行っている。活動にあたっての目的は①ユースが様々な持続可能な社会づくりに関わる問題を自分事化できるきっかけを作ること②場づくりを通して実践したいユースの支援を行うこと、の 2 つである。</p> <p>特に 1 つ目の目的について、社会問題を自分事化するためには、社会問題に第一線で取り組んでいる方の経験や体験を聞き、追体験することで自分事に近づくのではないかと考えている。したがって、イベントではゲストトークの際に、どういった経緯で今の活動・立場があるのかということを必ず話してもらうようにしている。6/29 に行った「ユースと考える、やりたいこととの付き合い方」では NPO 法人 ezorock 代表の草野竹史さんをゲストにお呼びし、ゴミ問題に取り組むようになったきっかけを半生と共に語ってもらった。</p> <p>団体を立ち上げてからまだ日が浅いが、今までの企画は中学生から高校生・大学生・大学院生・社会人まで様々な立場の人が参加しており、イベントでは 10-20 代の多様な人が交流する場づくりが実現している。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> 任意団体 omusubi FB https://www.facebook.com/任意団体 omusubi おむすび-622273754922313/?ref=bookmarks 「ESD 北海道ユース・ダイアログ」 https://www.facebook.com/events/1212153695632412/ 				
私が考える教育の未来像				
<p>探究を経験し、生きる力を身につけた子供たちが広い視野をもって社会で活躍できる未来である。日本の教育は転換期にあり、自ら問いを立て主体的に答えのない問いに取り組む「探究」が取り入れられようとしている。探究が取り入れられると、学校の外に出て、地域～地球の様々なレベルで何らかの形で社会課題に取り組む中高生は、今後さらに増えることが考えられる。子供たちが主体的に学び、行動する力をつけ、「何をするか」だけでなく「どう在るか」も同時に重視されることもいきいきと社会で活躍できる未来にするために重要である。</p>				
私の強み、活かせる経験やスキル				
<p>私の強みは、外とのネットワークを活かして進めていけることである。現在、北海道大学大学院の理系大学院生であるが、普段は研究室で実験をするのではなく学外に出てフィールドワークを行っている。特定の専門性を高めることよりも論じるレベルの高さが求められる研究室なので、学外に積極的に出て、自分の力で人とのつながりを作って研究を進めることが必須である。そのため、学校関係者・NPO・行政に所属する社会人や中学生・高校生・大学生・大学院生まで多様な人と日常にかかわりがある。個人として中間支援を行うこともあるだけでなく、任意団体 omusubi もこのネットワークを活かして活動している。</p>				